

女性の健康対策事業の推進

コンソーシアム
共通課題

- ①女性ががん検診受診率の低さ
- ②低出生体重児の増加
- ③生涯の女性ホルモンの変化における健康課題

課題選択
背景

- ①子宮頸がんや乳がん等の女性特有のがんは、働く世代においても発症しうる病気であり、女性のQOLを低下させ、健保組合にとっては医療費に大きく影響するが、がんの早期発見、早期治療に向けた取り組みを徹底できていない。
- ②出産や不妊のリスクは、生まれてくる子どもや女性の健康に大きく影響し、健保組合にとっては、低出生体重児等の高額なケースの医療費にも影響するが対策が取れていない。
- ③女性の心身の状態は、ホルモンの影響を大きく受けるため、思春期、妊娠・出産期、更年期、高齢期といった、ライフステージごとの対策が必要となるが、この対応ができていない。

事業の目的

健康保険組合には上記①②③の課題があるが、女性の健康課題という広い範囲の中で、最新の専門的な知識を得ながら事業を実施することは健保単独では難しい。また、ウェブサイト等でさまざまな情報発信などが実施されているものの、情報が多く、効果的な事業を実施することが難しいのも現状である。女性の健康増進のためには、ヘルスリテラシーを高めることが重要である（ヘルスリテラシーの高さは、女性特有の症状（月経異常や更年期障害）があった場合、受診や内服等による対処行動、がん検診の受診と関連していると報告¹⁾されている）が、ヘルスリテラシーを高め、対処行動やがん検診の受診率を向上させるためになにができるかを、すでに実施している健康保険組合や企業の事例を通して、さらに専門家のアドバイスや講演をもとに、女性の健康増進を推進する事業を実行・計画することを目的とする。

1)日本医療政策機構「働く女性の健康増進に関する調査2018」

概要

課題の明確化・具体策の情報収集

専門家講演とディスカッションにより実行可能な対策を検討

健康課題の共有

先進的な取り組みの共有

- 女性特有のがん
- 月経異常
- やせ
- ホルモンの変化に伴う病気
- 不妊
- 更年期障害等

積極的に女性の健康対策に取り組む健康保険組合や企業が好事例を共有する

①がん検診の適切な情報提供について考える
・子宮頸がん、乳がんの予防について
国立がん研究センター
高橋宏和先生

②不妊やリスクのある出産について考える
・プレコンセプションケア、やせ女性について
国立成育医療研究センター
荒田尚子先生

③女性の40歳代以上の健康課題について考える
・生活習慣病
・更年期障害 等
国立成育医療研究センター
荒田尚子先生

健康保険組合
コラボヘルス

事業主

女性の健康増進
医療費適正化

実行・計画

- ・共同制作した資材にて加入者向け事業の実施。
- ・女性の健康に関する取り組み計画の立案。

- ・リテラシー向上
- ・健康行動促進
- ・がん検診率向上

担当者の理解促進・対策の具体化

効果的な資材を共同で企画制作

